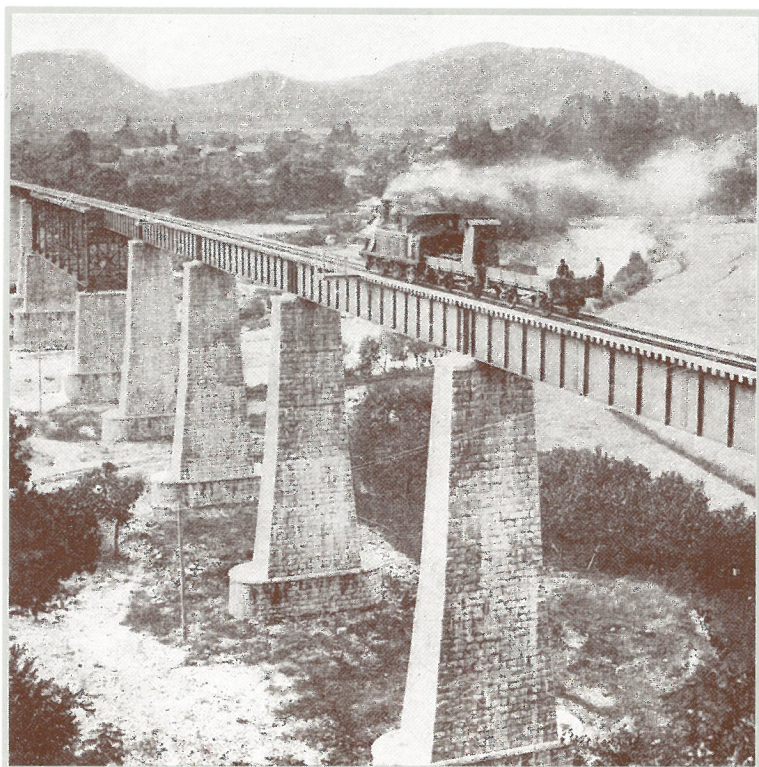
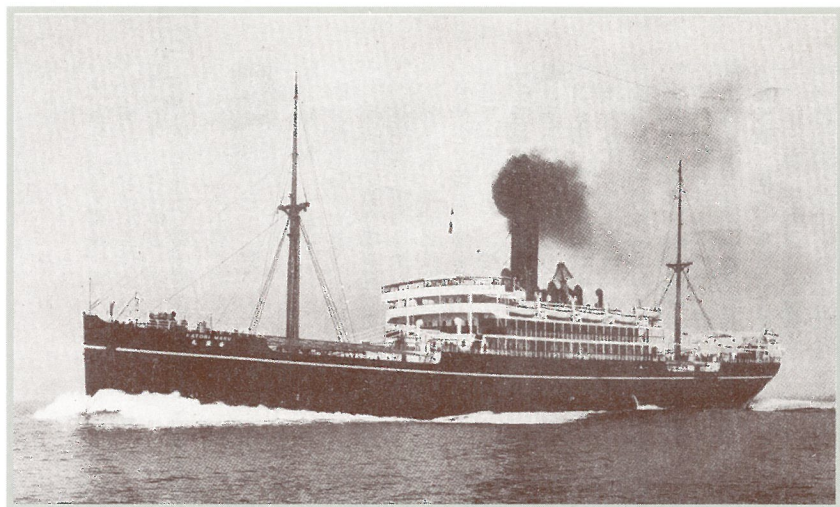


明治運輸史

● 全三卷／運輸日報社編



近代日本の資本主義確立に大きく貢献した“鉄道と海運”を中心とする運輸業の通史。



クレス出版

刊行にあたって

江戸幕府による国内・対外交通に対する厳しい統制政策のため、明治維新時点での日本の交通は極めて低位な水準にあった。とりわけ公共の大量輸送機関は存在しないという状態であった。

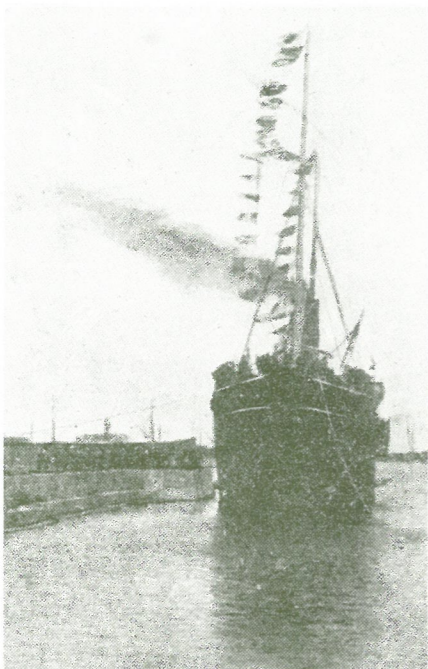
先進列強へのキャッチアップを至上命令とする日本政府にとって、近代的な政治的・文化的・経済的諸関係を支える交通インフラストラクチャーの構築は、戦略的な重要性をもつものであり、政府は近代的交通機関、その代表である鉄道と海運の創設と発展に対して積極的な政策を実施し、また深く介入した。その結果、明治末年までには、鉄道は全国的な幹線網の展開をほぼ達成し、その総仕上げとして鉄道国有化が実行された。海運は日本近海から欧米海運会社の影響力を早期に排除し、海運先進国として位置づけられるまでに成長した。

こうした条件に支えられて、日本の資本主義は明治三十年代にはその確立をみた。「富国」とともに「強兵」についても鉄道、海運は重要な位置づけを与えられ、強力な展開がはかられたことも、その明治的における展開を特徴づけている。

『明治運輸史』は、このように急速な発展を遂げた明治年間の鉄道と海運を中心とする運輸業の通史で、大正二年に刊行された。運輸関係の業界新聞社「運輸日報社」が編集主体であり、あくまで二次的資料であるが、明治期を対象として四六倍判一、五五〇頁にも及ぶボリュームに収録された情報の量には一目置くべきものがある。独自取材による情報、今日では入手困難な文献ソースからの大量の引用が、そのなよりのメリットである。

その後においてすぐれた公的修史事業、社史編纂が行なわれ、現在では膨大な文献が蓄積されているとはいえ、明治期運輸業の側面史ないし外史としての本書の独自の利用価値はなお大きいものと考えられる。運輸・交通関係の研究者はもちろんのこと、近代史、経済等の研究をなさっている方にも広くご利用いただくと考えております。

なお、刊行に際し小社では、全三巻に分冊し最終巻に解題を付すことにいたしました。また、同じ刊行元による『運輸五十年史(全三巻)』はすでに弊社で復刻刊行しておりますので、併せてご利用いただければ一層便利であると信じるものであります。



明治運輸史 全三巻内容

上巻

- 第一篇 序論
- 第二篇 陸運(1)
- 第一章 緒言
- 第二章 鉄道
- 第一節 世界に於ける鉄道の伝播
- 第二節 蒸汽車の伝来
- 第三節 我国鉄道の創業
- 第四節 鉄道略則等の制定
- 第五節 線路延長
- 第六節 私設鉄道の勃興
- 第七節 鉄道敷設法の制定
- 第八節 日露戦前及び戦時の鉄道
- 第九節 鉄道国有問題
- 第十節 鉄道国有の実施
- 第十一節 広軌鉄道問題
- 第十二節 広軌調査会
- 第十三節 国有後に於ける鉄道の発達
- 第十四節 官制の変遷

中巻

- 第二篇 陸運(2)
- 第三章 軌道
- 第一節 軌道事業の消長
- 第二節 電車
- 第三節 其他の軌道
- 第四章 軽便
- 第一節 総説
- 第二節 軽便鉄道の沿革
- 第三節 軽便鉄道の現況一斑
- 第五章 汽車製造業
- 第一節 総説
- 第二節 各種製作所
- 第三節 各工場の種類
- 第四節 鉄道院直営工場
- 第五節 各工場製作の概況
- 第六章 殖民地に於ける鉄道
- 第一節 満州に於ける鉄道
- 第二節 朝鮮に於ける鉄道
- 第三節 台湾に於ける鉄道
- 第四節 樺太に於ける鉄道

下巻

- 第三篇 海運
- 第一章 緒言
- 第二章 航運業
- 第一節 明治以前の航運業
- 第二節 明治初年の航運業
- 第三節 三菱会社独占時代
- 第四節 三菱共同両会社の対立
- 第五節 日本郵船会社の創立
- 第六節 大阪商船会社起る
- 第七節 日清戦前に於ける我航運業の概況
- 第八節 日清戦役並に其後の航運業
- 第九節 日露戦役並に其後の航運業
- 第十節 明治の末年に於ける航運業の実況
- 第十一節 我が航運業の実力
- 第十二節 世界に於ける我航運業の地位
- 第三章 船舶造修業
- 第一節 新式船舶造修業の発芽
- 第二節 民設造船所の嚆矢―石川島造船所
- 第三節 三大造船所の勃興及沿革
- 第四節 著名なる船舶造修業者
- 第五節 船舶造修業発達の概観
- 第六節 明治末年の船舶造修業
- 第七節 世界の造船界に於ける日本の地位
- 第四章 港湾
- 第一節 港湾の発展
- 第二節 開港
- 第三節 港湾の改良
- 第五章 殖民地に於ける海運
- 第一節 殖民地に船籍を有する船舶
- 第二節 殖民地の航運業者
- 第六章 結論
- 第四篇 運送取扱業
- 第一章 緒言
- 第二章 維新前に於ける運送業の概略
- 第三章 維新後に於ける陸送貨物取扱業の沿革
- 第四章 重要な鉄道貨物運送業者
- 第五章 海運貨物取扱業の沿革
- 第五篇 動力
- 第一章 石炭
- 第一節 総説
- 第二節 沿革
- 第三節 鉱区及石炭山
- 第四節 石炭の産額
- 第五節 石炭の消費高
- 第六節 石炭の輸出入高
- 第七節 重要炭山
- 第二章 水力電気
- 第一節 総説
- 第二節 水力電気事業の沿革
- 第三節 水力電気最近の状況
- 附録第一 運輸業者一覧
- 第二 運輸史上の人物
- 第三 受負業者一覧

平成三年五月二十五日刊

●B5判/口絵多数/上製角背
揃定価五六、六五〇円

(本体五五、〇〇〇円)

■好評既刊書

本邦経済統計

全8巻(大正7年〜昭和16年版) 日本銀行調査局編
日本銀行が編集・刊行する経済統計で、大正八年三月調の創刊号より昭和十七年十月に刊行された昭和十五・十六年版の戦前分二十三冊分を八分冊として復刻、日本銀行が独自に調査、集計した金融、企業財務、労働等オリジナルな諸統計を主とする第一次資料である。
B5判/総三、二八八頁/揃定価一四四、二〇〇円

明治徴発物件表集成

全30巻/別冊1 一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター編・解題 陸軍省の調査による一連の統計書『共武政表』『徴発物件一覧表』等を集成復刻。全国同一方式で町村字別に、幅員、戸数、人口等や牛馬・船舶・荷車・人力車の存在量、米麦・食料・薪炭など物資の生産量を現地調査にもとづく信頼の高い資料である。
A5判・B5判・A4判/総約一八、四〇〇頁/揃定価四六三、五〇〇円

鉄道技術発達史

全7巻/別巻2 日本国有鉄道編 原田勝正解題
鉄道八十年の記念事業として日本国有鉄道技術研究所が昭和三年より編集刊行したもの。系統的に(施設、電気、車輛と機械、運転、船舶、研究)編集された数少ない通史的著作物、日本における輸送の動脈としての役割を果たしてきた国有鉄道の技術発達史。
B5判・B4判/総約五、四〇〇頁/揃定価二〇六、〇〇〇円

公営交通事業沿革史

戦前篇 全10巻
東京・大阪・横浜・名古屋・京都・神戸の各市電気局(現交通局)が刊行した主要な沿革史の集成。公営交通発達においてキイとなる公営化過程についての刊行物も併せて収録。戦時交通統制が実施されるまでの各市の市内交通の発達史を総括。
A5判・B5判/総五、七六二頁、折込多数/揃定価一九一、五八〇円/各都市分売可

日本国有 日本陸運史料

全5巻 財団法人運輸調査局編 原田勝正解題
『日本陸運十年史―第二次大戦と運輸経済―』と『日本陸運二十年史―第一次大戦末期より日華事変勃発に至るまでの運輸経済―』を復刻。大正九年より昭和二十四年までの陸軍事業、交通史を中心に社会経済史的観点から纏めた貴重書。
A5判/総二、五六二頁/揃定価六六、九五〇円

運輸五十年史

全3巻 運輸五十年史編纂局編
近代的な交通機関を代表する鉄道が開設五十年をむかえたことを記念し刊行されたもの。鉄道は国有、地方鉄道を詳細に、その他海運、道路及水運、新時代の交通機関飛行機、自動車、燃料及動力として石油、石炭、水力電気等広範な情報資料を集めた貴重書。
B5判/総一、七六八頁、写真多数/揃定価四六、三五〇円

南洋叢書

全5巻 満鉄東亜経済調査局編 原田勝正解題
第一次大戦後、とくに一九三〇年代にはいり日本の資源獲得のために目標となった地域(蘭領東印度、佛領印度支那、英領マレー、シヤム、比律賓)の広範囲に及ぶ高度な資料集である。経済・商業・貿易・交通・国際関係等の研究者の方にご利用いただける資料。
A5判/総三、一〇〇頁/揃定価七二、一〇〇円

朝鮮総督府施政年報

全30巻(明治39年〜昭和16年版) 朝鮮総督府編 広瀬順皓解題
明治三十九年韓国統監府が設置されて以来、明治四三年の日韓併合をへて昭和一六年版まで刊行された日本の朝鮮統治の年次報告書である。行政、司法、治安、財政、金融、交通、産業、教育等各分野を網羅している、日本の朝鮮支配研究の基礎史料の一つである。
A5判/総約一六、一〇〇頁/揃定価三九一、四〇〇円

